

北京市卫生和计划生育委员会

Beijing Municipal Commission of Health and Family Planning

北京市が輸入性ジカウイルス感染患者 1 名を報告

中国教育网络电视台

www.bjhb.gov.cn 2016-05-15

来源：北京市卫生和计划生育委员会

北京市衛生計生委員会は、2016年05月15日、同市で輸入性ジカウイルス感染患者画報告されたと発表した。

患者は、中国籍の29歳女性で、山東省煙台市人。煙台市の某企業職員だ。患者は2016年04月にベネズエラ入りしていたが、現地時間05月11日に少量の皮疹を伴う発熱が現れ、13日（北京時間）に航空機で帰国、14日未明に首都空港に到着したが、入国時の空港入出国検閲検疫部門による最初のスクリーニングにより、ジカウイルス感染が疑われ、職員と病院に同行されて受診、即時入院治療となったが、これまでの患者の症状は安定しているとのことだ。05月15日、患者の関連サンプルが北京市CDCの初回検査や中国CDCによる患者の唾液や尿サンプルを再検査してジカウイルスの陽性反応が得られ、北京市衛生京成の市レベルの専門家グループが会診し、患者の疫学史や臨床症状と実験室での検査結果を合わせて、当該患者を輸入性ジカウイルス感染患者であると診断した。

これまでに、北京市衛生計生委は、専門家を組織して、輸入性ジカウイルス感染患者が持ち込む感染リスクについてアセスメントをしている。専門家たちは、ジカウイルスは蚊が媒介する感染症に属しており、主にネッタイシマカに刺されることで感染するが、北京市ではネッタイシマカは観測されていないため、輸入性患者が電波を皿に拡散させるリスクは比較的低いであろうと認識している。

現在、北京市衛計委は関連する診療方案や予防管理要求に基づき、全力で患者の治療に当たっており、更に各項予防管理措置を実施、疫学調査や媒介蚊の緊急モニタリング、愛国衛生運動、健康教育などの工作が実施されている。

同時に、個人の健康防護の角度を考慮し、北京市衛計委は市民に対して、当面の間はジカウイルス感染症の流行国家への渡航は控える容易と警告している。

http://www.bjhb.gov.cn/wsxxw/201605/t20160515_137133.html

..... 以下は中国語原文

北京市报告 1 例输入性寨卡病毒病病例

中国教育网络电视台

www.bjhb.gov.cn 2016-05-15

来源：北京市卫生和计划生育委员会

北京市卫生和计划生育委员会通报，2016年5月15日，北京市报告1例输入性寨卡病毒病病例。

患者，女，29岁，中国籍，山东省烟台市人，为烟台市某公司职员。患者于2016年4月前往委内瑞拉，当地时间5月11日出现发热、伴有少量皮疹，13日（北京时间）乘机回国，14日晨抵达首都机场。入境时，机场出入境检验检疫部门经初筛，考虑其疑似寨卡病毒感染，遂派员陪同患者前往医院就诊，随即收入院治疗，目前患者病情稳定。5月15日，患者相关标本经北京市疾控中心初检、中国疾控中心复核该患者唾液、尿液样本寨卡病毒检测阳性，北京市卫生计生委组织市级专家组会诊，根据患者流行病学史、临床表现，结合实验室检查结果，诊断该患者为输入性寨卡病毒病病例。

此前，北京市卫生计生委组织专家对输入性寨卡病毒病病例带来的传播风险进行了评估。专家们认为，寨卡病毒病属于蚊媒传播疾病，主要通过埃及伊蚊叮咬感染。北京市监测无埃及伊蚊，因此，输入性病例引发传播并进一步扩散的风险较低。

目前，北京市卫生计生委正按照相关诊疗方案和防控要求，部署全力救治患者，进一步落实各项防控措施，做好流行病学调查、蚊媒应急监测、爱国卫生运动、健康教育等工作。

同时，从个人健康防护角度考虑，北京市卫生计生委提醒广大市民，近期谨慎前往发生寨卡病毒病疫情国家。